

中小企業等におけるDX人材の育成

を支援しています！

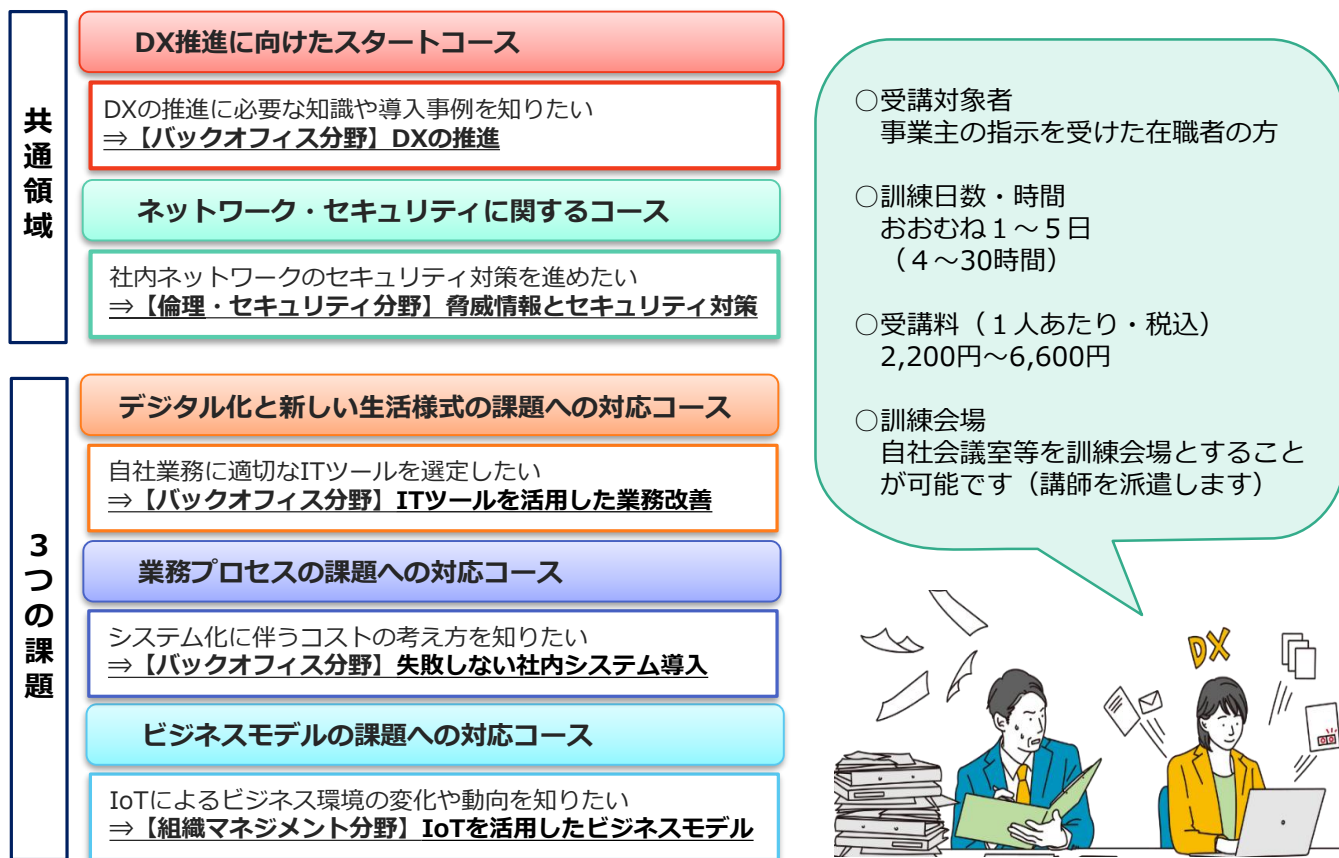
現在、社会環境・ビジネス環境の変化に対応すべく、企業・組織を中心に社会全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進んでいます。これに対応するためには、年代・職種を問わず、働き手一人ひとりがDXに参画し、デジタル技術を活用したプロセスの改善や、デジタルを活用しやすい組織づくりに取り組むことが重要となります。

生産性向上人材育成支援センターでは、生産性向上支援訓練カリキュラムモデルの中から「DX対応コース」を選定し、中小企業・事業主団体等の“DX人材の育成”を支援しています。



DX対応コースの概要

生産性向上支援訓練カリキュラムモデルの中から、訓練目的・分野による分類とは別に、DX推進に向けたスタートコース、ネットワーク・セキュリティに関するコースを選定し、**共通領域**として設定しました。また、DXに向けた**3つの課題**を設定し、それぞれの課題解決に対応したコースを選定・分類しています。



訓練受講までの流れ

課題や方策の整理 センター担当者が企業を訪問し、人材育成に関する課題や方策を整理します。

訓練コースのコーディネート 相談内容を踏まえて、課題やニーズに応じた訓練コースを提案します。

訓練受講 所定の期日までに受講料の支払い等の手続を行い、訓練を受講してください。

※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。



D X 対応コース一覧 全61コース (2024年12月現在)

DX推進に向けたスタートコース 4コース

119 DXの推進 117 DXの導入 126 DX人材育成の進め方 129 製造分野におけるD X推進

ネットワーク・セキュリティに関するコース 8コース

021 IoT導入に係る情報セキュリティ 040 eビジネスにおけるリーガルリスク
 057 ネット炎上時のトラブル対応 098 ワイヤレス環境に必要な無線LANセキュリティ
 099 社内ネットワークに役立つ管理手法 115 脅威情報とセキュリティ対策
 116 情報漏えいの原因と対応・対策 125 テレワークに対応したセキュリティ対策

デジタル化と新しい生活様式の課題への対応 19コース

業務プロセスの課題への対応 23コース

ビジネスモデルの課題への対応 7コース

生産・業務プロセスの改善

009 POSシステムの活用技術
 056 ITツールを活用した業務改善
 091 企業内でIT活用を推進するために必要な技術理解
 092 企業内でIT活用を推進するために必要なマネジメント
 095 ビッグデータ活用
 055 RPAを活用した業務効率化・コスト削減
 096 RPA活用
 083 テレワークを活用した業務効率化
 088 テレワーク活用
 120 データサイエンス入門
 130 経理業務の効率化につながるDXの実践

007 在庫管理システムの導入
 016 物流のIT化
 013 流通システム設計
 014 物流システム設計
 012 卸売業・サービス業の販売戦略
 018 クラウド活用入門
 020 クラウドを活用したシステム導入
 054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 093 IT新技術による業務改善
 094 AI(人工知能)活用
 090 失敗しない社内システム導入
 087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用

015 3PLとSCM
 017 SCMの現状と将来展望
 019 IoT活用によるビジネス展開
 089 データ活用で進める業務連携
 118 ベンダーマネジメント力の向上

横断的課題

122 テレワーク業務における労務管理

022 IoTを活用したビジネスモデル
 121 ビジネスとSDGs(持続可能な開発目標)の融合

売上げ増加

123 オンライン営業技術

027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善
 028 統計データ解析とコンセプトメイキング
 046 インターネットマーケティングの活用
 036 プロモーションとチャネル戦略
 047 チャンスをつかむインターネットビジネス
 029 顧客分析手法
 045 顧客満足向上のためのCS調査とデータ分析

IT業務改善

103 効率よく分析するためのデータ集計
 104 ピボットテーブルを活用したデータ分析
 105 品質管理に役立つグラフ活用
 106 表計算ソフトを活用した統計データ解析
 114 SNSを活用した情報発信
 124 オンラインプレゼンテーション技術

107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
 108 データベースを活用したデータ処理(基本編)
 109 データベースを活用したデータ処理(応用編)
 110 データベースを活用した高度なデータ処理

DX対応コース 利用者の声①

株式会社岡田建具製作所 様

「RPAを業務に活用するイメージが掴め、導入に向けて動き始めることができました」

利用コース情報

- ・訓練コース名：「096 RPA活用」
- ・訓練期間：令和5年8月
- ・受講者数：9名

プロフィール

- ・所在地：北海道恵庭市
- ・従業員数：28名
- ・事業内容：木製建具・造作家具の製作・施工



<訓練を利用した事業主の方の声>

Q 利用した効果や受講者の方の反応をお聞かせください。

A これまでに利用した講義形式のセミナーとは異なり、実際にPCを用いて業務プロセス自動化が体験できたため、自社への具体的な導入がイメージできたようです。また、管理者・担当者が受講したことにより、各部署各立場での導入効果や課題を共通認識として持つこともできました。受講者アンケートでも満足度は高く、「業務に役立てることができる」ことがその理由だということも大変頼もしく思っています。

今後は、各部署が自らの業務に適したRPAの活用に取り組み、全社的に業務効率化を進めていくことを期待しています。また、必要に応じて未受講の社員に対しても訓練を実施したいと考えています。

<訓練を受講した方への声>

Q 受講した感想をお聞かせください。

A 当社では、製造部門（工場）と同様に事務部門でもカイゼン活動に取り組んでいますが、何から着手すればよいかを明確にできず、また、活動の成果を実感することも困難でした。

今回の訓練でRPA活用の対象となる非効率業務の抽出方法や業務効率化のためのRPAの具体的な活用方法を習得できました。実際にPCを使って教えていただいたので、RPAを活用したカイゼン活動に取り組む際のハードルがかなり低くなり、積極的な取組への動機づけにもなりました。

これからは、RPAをツールとして、総務の業務だけではなく製造及び営業のバックオフィス業務の効率化をサポートしていこうと思っています。

DX対応コース 利用者の声②

株式会社ビッドシステム 様

「DXを様々な視点で捉えられるようになったことで、顧客に積極的に提案できるようになりました」

利用コース情報

- ・訓練コース名：「119 DXの推進」「126 DX人材育成の進め方」
- ・訓練期間：令和5年9月～11月
- ・受講者数：各9名

プロフィール

- ・所在地：群馬県伊勢崎市
- ・従業員数：10名
- ・事業内容：コンピュータソフトウェアの開発及び販売

<訓練を利用した事業主の方の声>

Q 利用した効果や受講者の方の反応をお聞かせください。

A 今年度、DXをテーマに選んだのはソフト開発の会社としてDXを様々な視点で捉えた訓練を行いたかったからです。

訓練を利用することで「顧客にとってのDXとは何か？」「顧客が関わっているユーザーにとってのDXとは何か？」が具体的にイメージできてきました。訓練を重ねて受講することで、社員から「自分の仕事が整理できてきた、何がポイントか見えてきた」との声が聞こえており、これからも継続して訓練を活用していきたいと思えます。



<訓練を受講した方への声>

Q 受講した感想をお聞かせください。

A 今回の訓練テーマであるDXについて、最初は敷居が高く感じていましたが、講師の話聞いてみると、自分達が既に以前から取り組んでいるWeb上の業務管理等もDXの一つだとわかり、DXが身近なものに感じました。また、訓練の中で講師から他社のDXの取組事例等を紹介してもらいとても参考になりました。

今までは顧客の要望に応えるだけでしたが、DXを意識すれば、もっと役に立つものがたくさんあると思うので、これからはもっと発展して提案等ができるような気がします。普段はあまり社内で討論することがないため、演習の中で他の社員達の見解を聞くことができ、新しい発見や考え方を聞いて情報を共有できたのはとても学びになりました。